

アイ・ビー・エス・ジャパン

〈厚木センター〉

〒243-0432 神奈川県海老名市中央2-9-50

海老名プライムタワー12F

Tel. 046-234-9200 www.ibsjapan.co.jp

■ PROFILE

海外のデータ通信機器やネットワーク機器などを販売する専門輸入商社。産業用に特化したネットワーク製品を扱う台湾・モクサの販売代理店としても活動。



■ Wi-Fi診断・測定デバイス

「Ekahau Sidekick」

| 製品ポイント |

- Point 1 無線LANの電波を可視化
- Point 2 ソフト上で設置シミュレーションが可能
- Point 3 アクセスポイント以外の電波も収集

無線通信環境を安定化

■ 最適な無線LAN環境を構築

アイ・ビー・エス・ジャパンが輸入代理店を務める米国・エカハウは、無線LAN構築ツールのソフトウェアで世界トップシェアを誇る。同社が新製品として発売したWi-Fiの電波環境を診断して測定するデバイス「Ekahau Sidekick（サイドキック）」と、Wi-Fi設計ソフト「Ekahau Site Survey（サイトサーベイ）」をインストールしたノートPCやタブレットを持ち歩き電波を収集すれば、Wi-Fiにつながる無線機であるアクセスポイントを設置する前後の電波環境を可視化できる。

また新しくアクセスポイントを設置する時に、どこに設置すれば通信が安定するかシミュレーションもできる。

■ 無線通信の時代

モノのインターネット（IoT）が普及するにつれて、工作機械などの設備メーカーから設備間でデータを無線で転送するニーズが増えた。「Wi-Fiなど無線環境を構築したくても、どうすればいいのかわからない人が多い」と佐藤仁将リーダーは話す。

機械の稼働状況などを把握するためにタブレットを使用したり、またデータを蓄積してクラウドで管理したりなど、無線通信環境が必要な場面は多く、電波環境の確認が必要になる。

各チャンネル内で電波が干渉すると接続が切断される可能性が高くなる。例えば2.4GHzのチャンネル

だとアクセスポイント以外に電子レンジから発生する電波と干渉する。工場内の事務エリアでは、すでにIT部門がオフィス設備の通信環境として2.4GHzの無線LANを構築している場合があり、隣接する生産エリアなどで無線LAN環境を構築する際には干渉源となることが多い。サイドキックはPC上でアクセスポイントがどのチャンネルを使用しているか表示できるなど、干渉を未然に防げる。また、アクセスポイント以外の電波も収集することで通信の安定化を図れる。

(浅野堯史)

システム営業部 営業1課リーダー
佐藤 仁将さん

「半年に1度は、電波環境を維持できているかを調べたいことを推奨しています」

